

「方法」講義立会記

大場有記

「方法」という概念について理解するのは普段触れることのないものであるからこそ大変興味深いものだ。私がこれまで美術に触れる機会は美術館で開催される企画展が主でそれ以外はないと考えていた。しかし、これまでの中ザワ氏の考えに触れ、それは日常にあるものすべてを芸術と結びつけることが出来るのではないかと感じた。授業中には中ザワ氏が芸術家になるまでの経緯や「方法」の確立についての話を聞いているが、自分も何か世の中に発信するような活動がしたいと感じた。前衛的な近代芸術は古典的なものから考えれば型破りでどうしようもないものだと考えることもできるだろう。こんなものは芸術ではないと言われながらも世の中に何かを発信していくことに憧れを覚えた。自分の方法が確立できるのは芸術家にとってかなり難しいことだろう。私は現代日本の性俗文化に非常に憤りを感じる。日本という国は恥じる文化があるからこそ日本人は美しいと考える。それがいつしか性俗文化がどこでもかしこでも溢れている。性を商売とするものはもってのほかだと考える。しかし、インターネットなどメディアが盛んになるにつれて日本人は恥じることを忘れてしまっていると感じる。恥じる文化があるからこそ日本人は美しいのではないだろうか。私はかつての日本人がそうであったように、現代日本人にも恥じることを覚えてほしいと感じる。これを芸術で発信するために何かできるのかと考えるが、すぐには思いつかない。街にペイントしたりすれば法に触れるし。世の中に対して持っている不満は多くあるがそれを発信するために身の丈に合った方法を確立したいと思う。残りの授業にも期待する。